

## 平成27年度 鳥取県中部沿岸土砂管理連絡調整会議

日 時：平成27年11月4日（水）午前10時から午前11時15分

場 所：中部総合事務所B棟2階 205会議室

参加者：別添名簿のとおり

### 1 開会挨拶

（事務局）

- ・最近では、気象変動の影響が顕在化しており、本年9月の関東・東北豪雨においては、堤防決壊による大浸水被害の発生、また、爆弾低気圧も毎年のように山陰沖に発生している。10月初旬には中海湖心の水位が96cm（観測史上4位）まで上がり、一部中海沿岸で浸水被害が発生した模様。
- ・海岸においても、「鳥取沿岸の海岸侵食は大丈夫なのか」という声が非常に高まっており、鳥取県議会でも、侵食対策、サンドリサイクルについて議論がなされたところである。

### ○平成26年度連絡調整会議の議事概要

（事務局）

※資料により説明

### 2 議事

#### （1）サンドリサイクル事業の効果検証及び課題抽出

（事務局）

※サンドリサイクル実施状況、評価分析、今後の方針について、対象海岸毎に資料に沿って説明。

[対象海岸：天神川左岸地区、由良川左岸地区、天神川右岸地区]

（北栄町）

- ・浜幅の考え方として、高さT.P.4.5mから汀線までの距離ということであるが、東新田場付近は、T.P.4.5mの高さが確保された上の浜幅なのかどうか。個人的には、かなり低く、T.P.4.5mが確保されていないと思う。

（事務局）

- ・測量の横断データがなく、かつT.P.4.5mの高さが確保されていない区間はほんの一部しかないが、そういう場合には、T.P.4.5mが確保されている隣の測点を利用して浜幅を算出している。もう少し細かく測量するようにしたい。
- ・波返し端部であるため侵食されやすく、入念にサンドリサイクルが必要と認識している箇所である。地元から意見等が出ているのか。

（北栄町）

- ・地元は心配されている。背後に民家はないが、畑を作っておられるので、波が越えて来ないかと。

（事務局）

- ・波返し端部が一番弱いところ。構造物も汀線に合わせてセットバックして欲しいくらいである。
- ・また、天神川の堆積土砂をサンドリサイクルしてみてもどうかと考える。多少粒径が大きいものでもいいと思う。

（倉吉河川国道事務所）

- ・天神川の堆積土砂はあるが、ふるい分けが必要。サンドリサイクルを入念にということだが、根本的には波返しの形状が悪さしているのではと感じる。

（松原教授）

- ・河川の河口や中流域の堆積土砂について、粒径が大きいもの、小さいものをサンドリサイクルするこ

とはいいが、鳥取地区の海岸では地域の方からクレームが出たことがある。程度によると思うが、懸念される場所である。

(黒岩教授)

- ・情報提供として、現在、天神川左岸側の導流堤の直ぐそばがかなり侵食されている。夏場から見ているが、植生の辺りまで後退している。今後、砂が戻ってくるのかなと思うが、ここも構造物付近で影響が出ているため、系内でバランスがどうなっているのかなと気になる場所。

(事務局)

- ・注視していきたいと思う。

(事務局)

- ・昨年度の会議において、天神川右岸から橋津川左岸までの区間の汀線後退が進んでおり、サンドリサイクルの調整が必要とのことであったが、その後どのような状況か。

(湯梨浜町)

- ・本年度、羽合漁港内に仮置きしている浚渫土砂について、約 4,000m<sup>3</sup>ほど中部県土局に持って行ってもらった。

(中部県土整備局)

- ・今の長瀬海岸については、季節的に前浜が無くなってしまいうような状況が本年度も発生しているため、浚渫土砂や仮置き土砂を投入して、危険な状態にならないよう対応しているところ。長瀬海岸全体として、季節的な影響により侵食傾向であるという状況は変わっていない。

(黒岩教授)

- ・逢東船揚場にかなり砂が溜まるということで、以前に細かい砂が家まで飛んでくるという話があったが、解決されたのか。

(琴浦町)

- ・現在、逢東の漁協関係者が定期的に周辺の砂を集積されており、町のほうは費用がかかるものであるため、集積にかかる機械代の助成を行っている。家屋については、それぞれの方が対応されていると思う。

(黒岩教授)

- ・集積された砂はどこに持って行っているのか。

(中部県土整備局)

- ・県のほうで、近年侵食されている大谷海岸へサンドリサイクルしている。

## (2) 各海岸管理者の土砂管理への取組

### ○天神川河口砂州の解析(経過報告)

(倉吉河川国道事務所)

- ・昨年度会議において、倉吉河川国道事務所で開催している「天神川総合土砂管理計画(案)」を紹介。
- ・平成 25 年度の段階で、上流砂防区域から河口区域までの土砂収支については、解析等によって大まかな数字は分かっているが、河口砂州についてのメカニズムが不明であった。
- ・本年度より、鳥取大学と包括協定を結び、海岸側(黒岩教授)、河川側(檜谷教授)それぞれの観点から解析等を実施し、メカニズムを解明した上で最終的に何らかの対応等ができればと考えている。

(H27~H28 の 2 カ年計画)

- ・内容としては、河口砂州、河口周辺の地形測量、河床材料に関する資料整理、調査等を実施し、これらの数値、データ等を取りまとめ、数値モデルの構築、シミュレーションによる対策工法等を検討していくという流れ。
- ・定点カメラによる観測や水位観測も実施しており、波浪の影響による砂州の形成や出水による河口砂州のフラッシュ等に注目している。

(松原教授)

- ・総合土砂管理計画については、県内 3 河川のうち天神川水系、日野川水系で実施されており、全国的

にも先進的なものである。

(黒岩教授)

- ・沖側で深淺測量を実施。また、汀線間際までより詳細なデータを集めるため、ラジコンボートを用いて水深 2~3m 以浅を測量しており、陸側では、RTK-GPS による海浜測量を実施しているところ。
- ・まだ測量中ではあるが、台風通過前後の地形測量の結果によると、右岸開口部（みお筋）で変動が見られるが、波が来れば砂が溜まるというわけではなく、こまめに見ていこうかと考えている。

### 3 その他

#### ○海岸法改正に伴う「海岸保全基本計画の改訂」について

(事務局)

※資料に沿って説明

- ・平成 26 年度に海岸法が改正され、国が定める『海岸保全基本方針』の変更が告示された。(平成 27 年 2 月 2 日)
- ・これに伴い、平成 13 年度に策定している「鳥取沿岸海岸保全基本計画」を改訂する必要があるというところで、事務を進めているところ。
- ・「海岸の保全に関する基本的事項」と「海岸保全施設の整備に関する基本的事項」の 2 つの概念がある。
- ・「保全」に関する事項については、新たな考え方として、L1、L2 津波等に対するソフト対策を含めた防護に関する観点の位置付けが必要である。
- ・L1 津波：比較的発生頻度の高い津波（数十年～百数十年に 1 回）
- ・L2 津波：想定される最大規模の津波（数百年～数千年に 1 回）
- ・「整備」に関する事項については、津波、高潮、地震に対する取り扱いが課題であり、さらに近年、海岸施設の老朽化の話が話題となっているが、施設の維持・修繕に関する事項を全て新たに位置付ける必要があり、各管理者との調整が課題であると考えている。
- ・現在、改訂に向けた業務を発注し、大括りの考え方の議論、整理整頓をしているところであり、今後作業を進めていく中で、各市町村へ調整や意見等を求めることとなるので、よろしく願いたい。

(黒岩教授)

- ・個人的には、海岸保全施設の維持修繕に関する事項というのが一番大事なのかなと思う。
- ・人工リーフや離岸堤の老朽化問題については、浦富海岸では、開口部が掘れてブロックが沈下したり、鳥取砂丘海岸では、最近、人工リーフ背後の舌状砂州が後退しているため、人工リーフがどうなっているのか、沈下しているのでは、といったところがあるため、詳細に現状把握していくことが重要であると感じた。

(事務局)

- ・堤防よりも人工リーフ、離岸堤の施設が多いため、予防保全的に維持管理を進めていく上では、施設の現状点検をきっちりしなければならないと思う。
- ・海岸保全基本計画については、基本的な考え方、スキームを記載する程度とする予定であるが、構造物の点検マニュアル等も変更されているため、来年度からきっちりと点検していきたい。

(松原教授)

- ・新しい点検手法等技術開発が進んでいるため、そういったところも視野に入れて実施していただきたい。

以上